

研修レポート

名古屋第一赤十字病院 研修医

新城市民病院では4週間、地域実習の研修をさせて頂きました。お忙しい中、ご指導くださった先生方、お世話になった病院のスタッフの皆様、ありがとうございました。

新城市民病院での実習では、主に総合診療科を受診された初診の患者さんの問診と診察を行い、プロブレムを挙げ、鑑別疾患や必要な検査を考えるといった一連の診療をさせて頂きました。また、ご指導を受けながら、救急車の対応もさせて頂きました。また、初診で担当した患者さんの外来フォローや、患者さんが入院した場合は、その後の治療や評価も担当させて頂きました。普段研修している病院での救急業務では、緊急疾患のルールアウトや一時的な処方や処置が主になっておりますが、今回の研修では、外来で患者さんの経過や治療への反応などを確認でき、たいへん勉強になりました。薬剤への反応が悪く、検査の結果からも器質的な疾患を強く疑わないときに、指導医の先生が患者の生活背景やストレスなどを丁寧に問診しており、患者から精神的な問題点をしっかりと聞き出したということがあり、患者とのコミュニケーションや問診の仕方など改めて学ぶことも多くありました。普段の各科ローテーションでは勉強しないような、軽症の疾患に関しても学ぶよい機会となりました。また、総合診療科では毎日その日の振り返りが行われ、自分の行った診察やアセスメントに対して多くの先生にご指導いただき、勉強になりました。出す検査の感度や特異度を考えて検査を行うことや、結果をどのように解釈するかなど基本的なことを見直すことができました。

また、今回の研修では、作手の診療所や訪問診療へ同行させて頂きました。作手の診療所では、主に在籍している医師は一人であり、訪問診療で訪れた患者さんは、がんによる全身状態の悪化があり、病院への通院が難しい患者さんでした。現在は家族の面会が制限されており、入院すると家族と一緒に過ごすことや会うことができませんが、訪問診療を選択することで、家族とともに生活しながら緩和的な医療を受けることができていました。患者さんの全身状態や生活状況、得られるサポートなどを総合的に判断して、病院で過ごしていくのがよいのか、自宅で過ごしていった方がよいのかを判断することが医師の責務であると実感しました。

他にも、論文の読み方に関する勉強会なども開催して頂きました。論文の探し方やPECOに着目し、短時間で論文の全体像を把握するといった基本的なところから教えて頂き、大変勉強になりました。EBM勉強会では、Up to Dateを用いて日常業務で抱いた臨床疑問を解決するといったことが行われており、参考になりました。

普段研修している病院では、経験できないような研修をさせて頂き、学ぶことが多くありました。今回の研修で学んだことをこれからの研修やそれ以降の診療にいかしていきたいと思います。